

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年11月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678100084
法人名	社会福祉法人 幸風会
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県熊毛郡南種子町中之上1702番地4 (電話) 0997 - 26 - 2345
自己評価作成日	令和元年9月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所の運営理念「明るく穏やかに助け合い思いやりを大切に」をスタッフ全員が意識して利用者と接しています。具体的には以下の通りです。

◆家庭的な雰囲気と思いやり・助け合いを大切にし、利用者がゆったりと過ごす時間を大切に笑顔で何でも話せるホームにします。

◆ひとりひとりの思いを大切にし、その人らしい生活が笑顔で送れるように、利用者の生活リズムに合わせた援助を行う事で、思いが叶うようにします。

◆利用者・家族・地域の方々、職員の声を大切にし、他職種との連携をとり、運営を行います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所の運営母体は、特別養護老人ホームを中心とする社会福祉法人であり、同一敷地内にデイサービスセンターやホームヘルプセンター・居宅介護支援センター等も併設されている。日頃から法人内の協力体制が築かれており、事業所のドライブやレクリエーション等の際に法人職員の協力を得ている。

・協力医療機関及び訪問看護師と、緊急時を含めた連携・協力体制が築かれており、利用者・家族及び職員の医療面における安心に繋がっている。家族の要望を受けてチームで看取り介護にも取り組んでいる。

・自治会に加入し、文化祭・体育祭等の地域行事への参加や、小学生の体験学習・中高生の職場体験及びボランティア受け入れ等、積極的に地域との交流に取り組んでいる。

・利用者担当や業務担当を1年交替で実施することで職員が意欲的にケアに取り組んでおり、職員各自の気づきから業務改善やサービスの向上に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は、いつでも誰でも確認出来る場所に掲示しており、特に職員は、会議時皆で唱和してケアの統一を図り実践している。	2年前に見直した理念を、リビングやトイレに掲示しパンフレットにも掲載している。毎月、職員会議時に理念を唱和すると共にケアを振り返り、理念の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭・体育祭・音楽発表会へ招待され、毎年参加している。郷土芸能も季節毎に地域の方が来て交流している。慰問やボランティアの受入も行っており、日常的に地域と交流している。	自治会に加入し、文化祭・体育祭等へ参加している。地域から郷土芸能の披露に来てもらったり、小・中・高・短大生の職場体験や実習及び地域のボランティアを受け入れる等、積極的に地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域で暮らし認知症高齢者の支援や理解者の一員として活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催し、利用者の状況や活動内容を報告している。利用者の要望や課題、サービス内容について意見を出し合い、課題解決や品質向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と意見交換を実施している。花見は時期の見極めが難しいとの報告から、利用者が楽しみにしている行事を計画通り実施できるようにと、委員から桜の苗木の寄付があり敷地内に植樹している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃より町の担当者と連携し、ケアに関する最新情報を得たり、現場の要望や課題を相談しながら協力関係を構築している。	町の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や出向いて相談する等、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。町実施の研修会に参加し、情報収集等に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の「身体拘束委員会」や研修会へ参加し、身体拘束の意義について職員全員が理解を深め「身体拘束はしない」ケアに取り組んでいる。	指針を作成しており、委員会は3ヶ月に1回、研修は年2回実施している。法人の方針である拘束をしないケアに取り組んでおり、本人の行動制限にならないか、との視点で家族とも話し合いケアの見直しを行っている。玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には、敷地内や周囲の散歩等で対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけでなく、言葉・心理的・経済的な虐待について研修を通して理解を深め、施設内から虐待が起きない様に職員全員が意識して防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	今まで利用された方はいらっしゃいませんが、制度については管理者が理解し、関係者へパンフレット等で簡単な説明は行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所に関しては特に、利用者や家族の気持ちえを十分に察し、丁寧に説明する事で納得・理解して頂き、安心して契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族の意見や要望に対しては運営推進会議等で話し合い、検討・改善に向けた取り組みを行っている。また、検討・改善の取り組み内容は、関係者へ「あじさい通信」等でフィードバックしている。	利用者には日々の会話で要望等を聞いている。家族には、運営推進会議や家族会・アンケートで意見を出してもらったり、面会時に近況報告を行い要望等も聞いている。嗜好品や面会時間に関する要望が出され、その都度検討して対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案は、その都度話を聞き対応するが、テーマによっては苑全体の代表者会議で提案し運営に活かせる様にしている。	日頃からお茶の時間や申し送りノートを利用して、職員間の意見交換を行っている。ケア会議で出された提案は、ケアに反映させている。個別相談は、随時、管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が個々の勤務態度や頑張りを評価し代表者に報告する。働きやすい職場環境整備に努め、定年後も働ける様に代表者へ働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>地区の研修会を中心に積極的に研修に参加させている。また、事業所内の研修やOJT、法人内での研修報告発表を通して介護力の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各事業所が集う地区の研修会・懇親会に参加したり、同業者との相互訪問等の交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人のニーズや身体・精神状態等（アセスメント）を本人・家族に聞き、利用者本位のサービスを提供し安心して暮らせる様に努めている。本人・家族へ事前に見学して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談等で家族の不安や困っている事に、アセスメントをベースに耳を傾ける事で精神的な支援を行い信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体・精神状況を的確に把握し、必要な支援が考えられる場合は、他の事業所やサービスを紹介して、相談を受ける様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が家庭でやっていたことや得意なことを活かし、役割を持って一緒に生活を築き上げて行く様な工夫や声掛けに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの提供・共有に努め、本人と一緒に支える為に、家族と同じ思いで支援していく事に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人・なじみの場所等に本人が関わりを継続出来る様に一緒に出掛けたり、事業所に来て頂いたりして継続的な交流が出来る様に働き掛けている。	家族・知人の面会時には、居室でお茶を飲みながらゆっくりしてもらっている。家族と墓参りや自宅訪問・外食に出かけた後、毎朝、位牌にお茶をあげて手を合わせる等、入居前の習慣や関係等が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話をしたり、気の合った者同士で過ごせる場所を作り、会話や歌を唄って楽しく過ごす時間を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方やデイサービスを利用されている方とは、個別にお招きしたり、行事等も一緒に参加し交流を暖めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、声掛けなどコミュニケーションに努め、本人に発言してもらい思いの把握を行っている。言葉や表情から真意を汲み取りそれとなく確認する様にしている。	職員と利用者が女子会と称してゆっくり話をする機会を設ける等、本人の思いを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合も表情等から汲み取り、記録や申し送りノートで情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やこだわり・馴染みの物や暮らし方を本人・家族・ケアマネ等から聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや季節、天候も考慮して動きや声・表情等から心身の状態を感じ取ることが出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者もアセスメントをし、職員間で共有し、日常生活の様子や表情などの気付きを記入して、本人・家族・職員の意見を取り入れて介護計画を作成している。	担当者会議で本人・家族の要望等を聞き、職員や医師・訪問看護師・薬剤師等の意見を参考に介護計画を作成している。モニタリングは、ケア会議で職員の意見を聞いて3ヶ月に1回実施している。計画の見直しは、6ヶ月に1回及び状況変化等の必要時に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>食事・排泄・体調の変化や日々の様子など気づき等を個別に記録し、全職員が確認出来る様にして、情報の共有をケア会議で行い介護計画を見直し実践に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族の思いや要望に応じて、事業所内外で対応しており、受診の介助や自宅訪問等を柔軟に支援している。入院時の援助も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の一員として、町の行事へ積極的に関わり、祭りや体育祭・音楽発表会等へ参加する事で、暮らしを楽しく過ごせる様に支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を大切にし、希望者に対しては以前からのかかりつけ医・薬局での診療を継続できるようにし又、歯科往診や薬局への相談も支援している。</p>	<p>契約時に本人・家族の希望を聞いて、家族の協力も得て受診を支援している。協力医療機関及び訪問看護師との連携・協力により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>外部の訪問看護事業所と契約を結び、24時間連絡体制を確保し、週1回や随時の訪問時相談し助言を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院による状態の悪化を極力防ぐ為、利用者の状況を的確に医療機関へ伝え、面会に行ったり、家族・病院と支援方法に関する情報交換を行い早期に退院出来る様に支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に利用者・家族に、プリントを渡して事業所の方針は説明している。 終末期になった場合は、家族・職員・関係機関と話し合い、事業所が出来ることを確認し対応している。(昨年、1件看取り経験)</p>	<p>契約時に、重度化等の場合の対応について説明し、同意書ももらっている。重度化等の場合、家族と管理者が同席して医師の説明を聞き、家族の意向を確認している。看取り介護については、本人の状況や家族の協力等を考慮し個々に対応している。看取りの事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年1回救急処置の訓練を行っており、AEDも設置している。緊急時の対応については、応急処置、連絡方法等のルールを決めており、研修会等で確認している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署や地域の消防団の協力を頂き、夜間を含め年3回の避難訓練を行っている。災害に備えて非常食2～3日分備蓄している。個々で防災ズキンも備えている。</p>	<p>昼夜想定で法人内合同避難訓練を年3回実施し、消防署及び消防団の協力がある。居室に防災頭巾・避難済みの蛍光確認シートを備え、水やインスタント食品・冷凍食品を備蓄し、カセットコンロもある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会や研修会等で利用者の生活歴を踏まえ、人生や人格（性別を含む）を尊重し、プライバシーを損ねない様な声掛けや対応の仕方について話し合い、実践している。	研修会を実施し、名字にさん付けでの呼びかけや入室時の声掛け等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。申し送り時は、利用者に聞こえないように配慮し、プライバシーの確保をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員間で決めた事を押し付けず、本人の考えを尊重する。職員は、選択肢を提案し本人自身で納得出来る様に声掛けや働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの状態に合わせて、その時々本人の体調や気持ちを尊重し、利用者本位のケアに心掛け柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた支援を行い、衣類等は自分で選んで頂き、個性を尊重している。誕生会や外出時にはおしゃれをして参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地元の野菜や山菜の皮剥き等下ごしらえを皆でやりながら調理方法を相談している。菜園では野菜の苗植えから始め、収穫した野菜を皆で美味しく頂いている。	献立は職員が作成し、差し入れの野菜や菜園の旬のものを個々に応じた食事形態で提供している。野菜の収穫や下ごしらえを一緒に行い、誕生日のケーキや季節の行事食・ホットプレートでのおやつ作り等を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養栄養士の献立を参考に栄養バランスを考慮し、家庭的な味わいで食欲が湧く様に工夫している。水分補給は、摂取表を付けながら一人ひとりの状態に合わせた援助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前には口腔体操を行い、口腔の直接・間接的なケアの重要性を認識し、食後のうがい、入れ歯の洗浄、歯磨き等の声掛けと介助をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の部屋にはトイレがあり、自身の部屋で排泄する習慣が出来ている。職員は排泄のパターンを把握し、失敗が少なくトイレでの排泄がスムーズに出来る様に支援している。昼間のリハビリパンツから布パンツへ3名が改善した。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、自室トイレで昼夜とも排泄できるよう支援している。個々に応じた排泄用品の検討を行い、昼間のリハビリパンツから布パンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・繊維質の多い食材を使用したり水分をしっかりと摂るなどしている。身体を動かす事で自然排泄を促す取り組みや、かかりつけ医へ相談をしながら服薬の検討もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的な入浴の曜日・時間を設定しているが、一人ひとりの体調や希望、気候を踏まえ気持ち良く入浴してもらえるように心掛けている。	入浴は午後の時間帯に実施し、毎日でも入浴できる。冬は足浴を実施したり、嫌がる場合は無理強いせず、体調や希望に沿った入浴を支援している。必要時は、特別養護老人ホームの特別浴も活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の活動を促し生活リズムを整える様に努めており、一人ひとりの運動と休養のバランスが取れるように支援している。 また、夕方は心が安らぐように語り掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が一人ひとりの服薬の内容・処方を把握出来る様に、薬の説明書の検索性やピルケースの整頓に心を配っている。処方や用量の変化が見られた時は、協力医療機関や薬局との連携が図れる様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭的な雰囲気を目指している事業所の業務（家事）を出来る範囲で利用者の方に手伝ってもらい、自宅のような暮らしを心掛けている。また、野菜作り・裁縫・音楽等好きな方など、その方の生活歴や出来る事で楽しく過ごせる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はドライブや散歩に出かけるように支援している。特に本人の生活環境や思い出の場所等を選んで目的地にしている。また、ご家族と外出することも推奨している。	天候の良い日は、敷地内や周囲を散歩し、時には中庭での食事会も実施している。年間計画を立てて花見や年2回の遠足に出かけたり、その日の状況でドライブ等をしている。家族と外食や墓参り・自宅訪問で外出する利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は社会と接する重要なファクターなので、自己管理出来る方には所持してもらい、外出時には使える様に支援している。使わなくても所持だけでも大切なことと認識している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	通信手段の電話や手紙は、本人と社会を繋いでいるので、年賀状や手紙を書く方へは、代筆・投函を支援している。また、家族・知人から連絡しやすい雰囲気作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は、利用者全員がゆっくりと居心地良く過ごせる様な雰囲気作りに心掛けている。照明は明るくし、くつろげるソファ、季節の花や手作りの飾り付け等に心砕いている。	リビングは明るく開放的で、自然の心地よい風が通っている。室内のあちこちに散歩時に摘んだ野の花や手作りの作品が飾られ、窓からの田園風景と共に季節を感じながらゆっくり過ごせるよう、ソファ等の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き仲の良い利用者同士や一人でゆっくり過ごしくつろげるスペースがある。足用のマッサージ機も用意されており利用している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれトイレ・洗面台があり、利用者の動線を考慮しベッドの位置を工夫している。家族の写真や使い慣れた小物が持ち込まれ居心地良く過ごせる様に配慮している。	居室にはトイレ・洗面台・タンスが備えてあり、利用者各自の思いや好み等で、テレビやラジオ・ソファ・衣装掛け・位牌等を置いたり、写真やぬいぐるみを飾って、本人が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、手すり浴室・トイレ・廊下・居室等の環境が、安全か自立への配慮がなされているか、日々の業務や会議で確認し、改善している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない